

# 通学道の

## 安全確保を早急に

### 岡豊地区市政懇談会

岡豊地区市政懇談会が、九月五日、岡豊町公民館で、市執行部や地元の住民ら約三十人が出席して行われました。

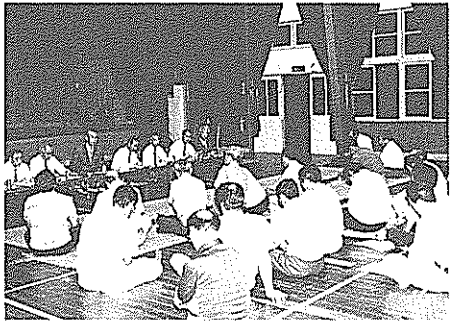
会では、まず小笠原市長が、財政再建や教育行政など市政の現状と展望を説明。引き続き質疑に入り、地元の代表者から通学路の安全確保の問題など、地元の問題について質問が出され、担当課長らによって説明が行われました。主な内容は次のとおりです。

- 通学路であるとドライバーに認識してもらえないような標識の設置が急務では。
- 今日の道路事情や交通量の変化からも全的に通学路を見直す必要がある。標識の設置については十分検討していく。
- 岡豊小学校の体育館とプールの改築はいつになるのか。
- 岡豊小校舎については平成四年二月末に完成を予定しており、体育館及びプールはそれ以降と

なる。それぞれの位置等も計画して校舎の建築を行っており、順次施設の整備を進めていく考えである。

□支所の業務時間が短くなり不便だ。

□重要書類の本庁での集中管理により業務内容が変更となり、通常の臨時職員では法律上毎年交代になることから、嘱託職員を置くことになったが、制度上勤務時間が七割程度と制約され



地元の抱える問題を真剣に討議

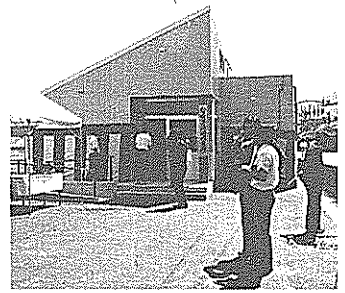
ており業務時間を短縮せざるを得なかった。

時間帯、業務内容変更の周知が徹底されていないことから混乱を生じていることもあり、今後とも周知方法を考えていきたい。

## 市内初めて 精神薄弱者の就労の場 なんこく共同作業所が完成

精神薄弱者に就労の場を——と、久礼田に建設が進められていた「なんこく共同作業所」(山本忠明所長)がこのほど完成。高知県精神薄弱者育成会や手をつなぐ親の会、県、市の関係者ら約百五十人が出席して、九月二十二日に落成式が行われました。

南国市に共同作業所をという

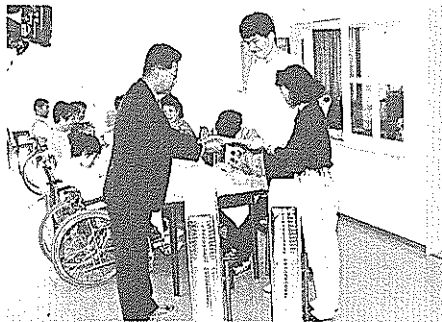


久礼田に完成した共同作業所

声、障害を持つ子供たちの父母から上がり始めたのは昭和六十二年。六十二年四月に「南国市に障害者の共同作業所を作る会」が発足。資金集めや市有地無償貸与の署名を集めて議会に請願を提出するなど、作業所発足に向けて取り組みを進めてきました。平成元年四月には社会福祉センターでガゼ折りなどの作業を開始、同時に会の名称を「南国市手をつなぐ親の会作業所部会」と改め、その年の十月には市有地の七年間の無償貸与契約。今年五月に建築工事に着手しました。

五八一平方メートルの敷地に、鉄骨平屋建て、延べ床面積二二五平方メートルの作業所を約一千六百万円かけて建築。作業室や事務室のほか、休養のための和室、風呂場、便所などが完備されています。

落成式で山本所長は、「地元や議員、関係者の皆さんのご助力で、県下で十番目の小規模作業所が完成した。不安とファイトが入り混じっているが、所員共々市民と一体になって生活できるよう、また、皆さんに迷惑をかけないように、一步一步やっていきたい」と語っていました。また、この作業所を父兄だけで運営していくのはなかなか大変で、作業所では、一日少しの時間でもボランティアの方に手伝ってもらいたいと協力を呼び掛けています。



開所後、作業所に続々と暖かい寄付が寄せられている。10月24日には四国電力から冬に備えて遠赤外線暖房機が贈られた。